



藤

去りゆく春を見送るかのように、大きな花穂を長々と下垂させて咲く藤の花は、たおやかでありながら豪華な美しさを誇り、まき絵を見るような風情が感じられます。

藤の花は日本原産で、古来より紫の色を最高とする習慣とも関連し、藤棚や盆栽などで親しまれてきました。特に平安時代には、当時隆盛をきわめた藤原氏を表徴する花、平安文化のシンボルとして広く愛好され、藤を詠んだ数多くの歌が残されています。

薫風^{かぜ}に揺れる淡い紫の花房は、もうすぐそこに初夏が来ていることを告げています。

「藤波の花は盛りになりけり
平城^{へいじょう}の京^{きょう}を思ほすや君」

大伴 四 綱